

都道府県名	広島県
-------	-----

・学校の概要（平成14年4月現在 実施計画書から転載可）.

三原市立小坂小学校（フロンティアスクール名）										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6		
児童数	20	14	19	16	24	12	0	105	10	

・実践研究の概要

1. 主題(テーマ)

確かな学力を育てる授業の創造  
- 評価を生かした指導を通して -

2. 内容と方法

(1) 実施学年・教科（選択した理由を付すこと）

学力実態調査（新-CRT-）、算数科に対する意識調査、基礎学力定着状況調査等により数学的な考え方、図形領域、意欲・関心に課題がある。  
また、理解度に差があり、よりきめ細かな指導が必要である。

1年生～6年生 算数科

(2) 年次計画

平成  
14  
年  
度

テーマ  
自ら考え、豊かに表現する子どもを育てる授業の創造  
- 評価を生かした指導を通して -

仮説

- ・算数的活動や練り合いの場を取り入れるならば、算数に興味・関心を持ち、自ら進んで考えて取り組むようになるだろう。
- ・自己を振り返り、自己を見つめさせる自己評価を行えば、意欲・関心が高まるだろう。
- ・個に応じた学習を進めれば、学力は向上するだろう。

研究内容・方法

- ・児童の実態把握 学力実態調査（新CRT）基礎学力定着状況調査 課題の明確化
- ・算数的活動の理論研修 教材開発 検証授業
- ・評価を生かした指導方法の工夫改善 プレテスト 自己評価
- ・マネジメントサイクルの手法を取り入れた授業改善
- ・個に応じた学習 表現方法別 興味関心別 習熟度別の検証授業

平成  
15  
年度

テーマ  
確かな学力を育てる授業の創造  
- 評価を生かした指導を通して -

仮説  
・個に応じた学習を進めれば、学力は向上するだろう。  
(習熟度別 支援カード・プリント)  
・評価を工夫すれば、自己評価能力が高まるだろう。

研究内容・方法  
・児童の実態把握 学力実態調査(新-CRT-)基礎学力定着状況調査  
課題の明確化 算数的活動を伴う教材開発  
・評価を生かした指導方法の工夫改善(プレテスト 自己評価 形成的評価)  
・マネジメントサイクルの手法を取り入れた授業改善  
・学力を高めるための個に応じた学習 表現方法別 興味関心別 習熟度別の検証授業

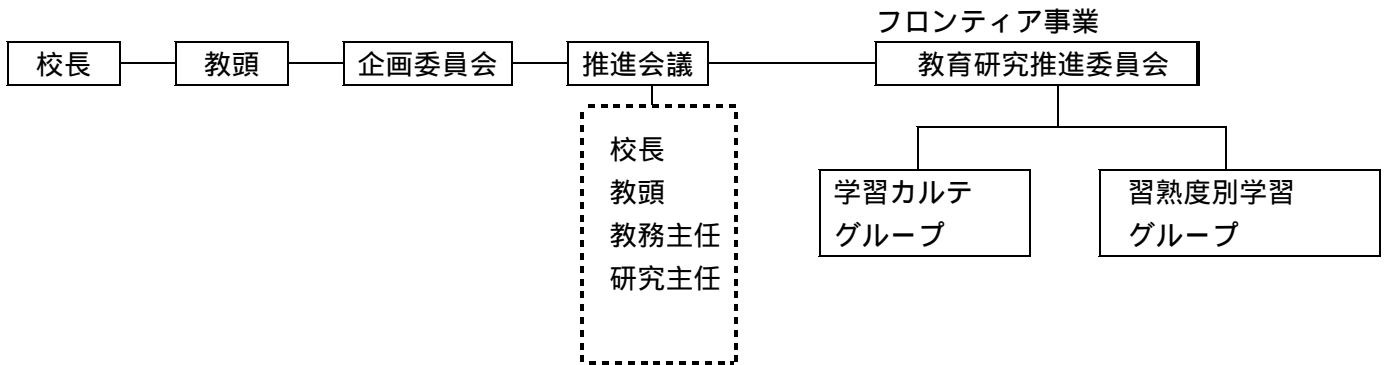
平成  
16  
年度

テーマ  
確かな学力を育てる授業の創造  
- 指導と評価の一体化 -

仮説  
・指導と評価の一体化を工夫すれば、学力は高まるだろう。

研究内容・方法  
・児童の実態把握 学力実態調査(新-CRT-)基礎学力定着状況調査  
課題の明確化 算数的活動を伴う教材開発  
・評価を生かした指導方法の工夫改善(プレテスト 自己評価 形成的評価)  
・マネジメントサイクルの手法を取り入れた授業改善  
・学力を高めるための個に応じた学習 習熟度別の検証授業

(3) 研究推進体制



昨年度は、指導法グループと評価法グループに分けていたが、今年度は、評価を生かした指導の工夫改善を特に進めるために、学習カルテと習熟度別学習の二つのグループとした。

・平成15年度の成果及び今後の課題

## 1. 研究成果

### (1) 研究前の児童生徒の状況及び課題 (15年度1回目)

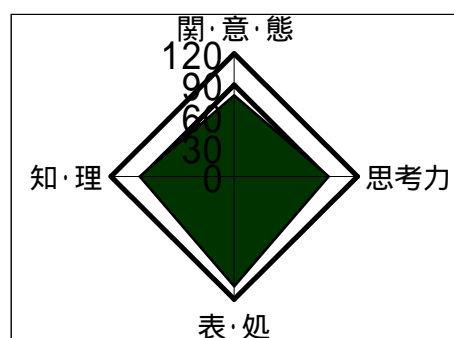
昨年度来実施している学力実態調査(新CRT-)表や図から、3年生から6年生まで**関心・意欲・態度**の観点で全国平均よりも低い通過率であり、本校においては**関心・態度・意欲に課題がある**ととらえた。また、知識・理解の標準偏差が25.8もある学級もあり、一人ひとりの学力のパラツキが高く、個に応じた支援が必要であるとする。

表 平成15年度(平成15年4月実施)CRT実態調査

	関心・意欲	考え方	表現・処理	知識・理解
2年(14人)	85.7	77.9	91.7	91.9
全国平均	84.9	81	89.5	87.3
3年(19人)	72	72.1	88.6	86.8
全国平均	86.7	71.4	88.6	80.1
4年(16人)	59.4	80.9	88.3	85.3
全国平均	83.9	71.2	81.2	81.6
5年(24人)	72.4	56.1	85.8	74.5
全国平均	77.8	60.7	80.3	84.5
6年(12人)	61.4	62.8	76.4	84.5
全国平均	80.6	55.5	74	81.9

全国平均との差が5ポイント以上高い-
" 差が10ポイント以上高い-
" 差が5ポイント以上低い-
" 差が10ポイント以上低い-

図 平成11年度入学児童(5年生)



### (2) 研究の具体と成果

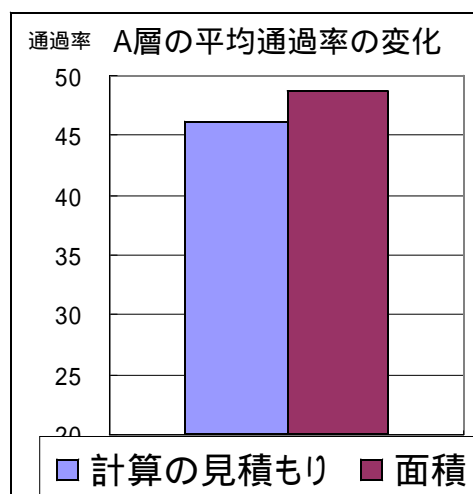
#### 学習カルテ

本校では、短期的学習カルテ及び長期的な学習カルテを作り、何が一人ひとりの学力向上の妨げになっているのかを分析し、指導に生かしていくことを考えた。学習カルテには、教師がその時間の児童の様子を観点別評価基準にもとづいて記入をしたり、その時々の評価を記録として残している。

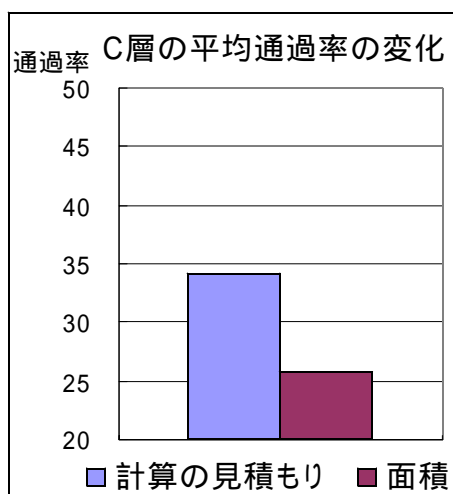
研究の結果 **学習定着度が高い児童にとっては、発展的な内容は、更に学習意欲を高め理解を増す傾向があり、学習定着度が低い児童にとっては、補充的な内容の方が、より効果があることがわかった。**下の図、は学習カルテによって学力層での関係性を分析した例で、学習内容と学力層の関係性を表したものである。

図はA層(十分満足できる状況にある児童)で図はC層(努力を要する児童)である。

図



図



(5年生24人 計算の見積もり-15年9月 面積11月)

それぞれの図は、左側の縦棒が「計算の見積もり」の通過率で右側の縦棒が「面積」の通過率を表している。**A層の通過率は46.2から48.7と上がっている。**それに対して、C層の通過率は、逆に下がっている。

「計算の見積もり」では、発展的な内容とともに補充的な内容で定着を図っていたが、「面積」では、**発展的な内容のみを主に取り扱った結果である。**「面積」の単元では、補充的な内容はそれほど十分用意できたとは言えな

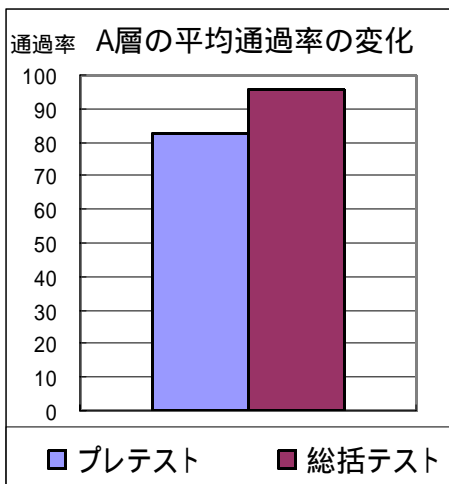
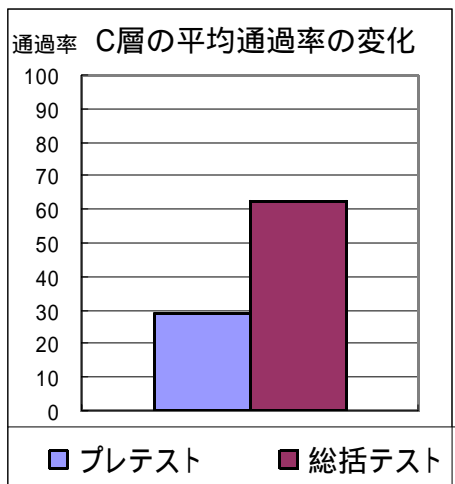
かった。A層の児童にとっては十分満足できる状況になり、C層の児童にとっては、発展的学習内容をするのがかえって学習の定着が十分でなかった。

そこで、その反省をもとに、次の単元「式と計算」では、A層、B層、C層それぞれの習熟に応じた教材を用意するようにして行った。

具体的には、「計算のきまり」ができなかった場合には、特に「計算のきまり」を中心に再度学習する**達人コース**、「式の読み方」に課題がある場合には「説明の仕方」を中心に学習する**名人コース**、両方とも「十分理解している場合」には問題作りを中心に学習する**問題作りコース**を設定した。

図 C層

図 A層



図のグラフはA層とC層の変化を分析したもので、A層の児童も、プレテストの通過率の低かったC層の児童も通過率が高まっている。それぞれの個の課題にあったコースを設定することで、学習に対する意欲や学習内容の定着率が高まることがわかった。

(5年生 24人 平成15年11月)

### 自己評価能力の育成

自己評価カードを活用することで、**関心・意欲・態度を高めることができる**。本校では、習熟度別学習を進めるために、どのコースを選べばよいかを主体的に選択する能力が必要であることと、関心・意欲・態度の育成のためには自己評価能力を高めることが必要であると考え、自己評価カードを作成し、取り組みを進めている。次の図はその自己評価カードの例である。

図 5年生(変わり方のきまり)

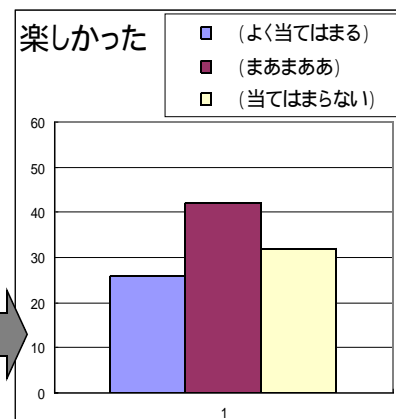
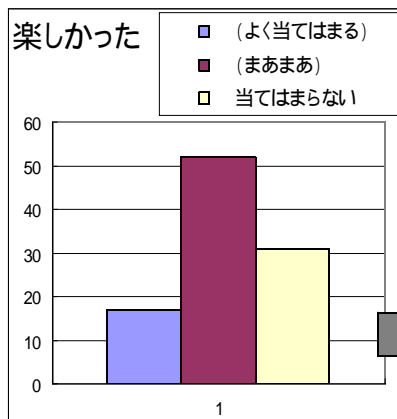
関心・意欲・態度が学習の学習指導の工夫によってどのように変化をしていくか自己評価カードを分析したところ、図の5月と10月を比べてみると、「楽しかった」あるいは「進んで考えた」のいずれもが増えていることから、1学期に比べ2学期以降、関心・意欲・態度の観点で改善されている。



平成15年9月

図 5月

図 10月



(4年生16名 平成15年5月と10月)

図 5月

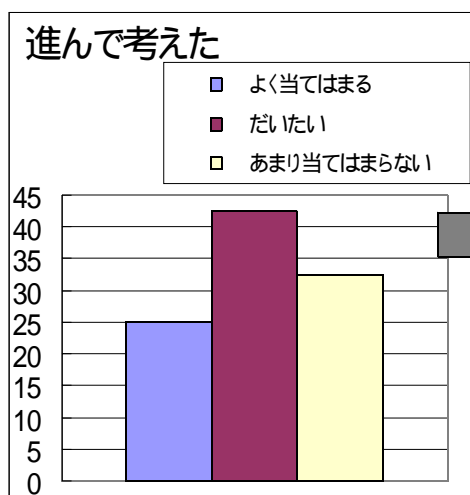
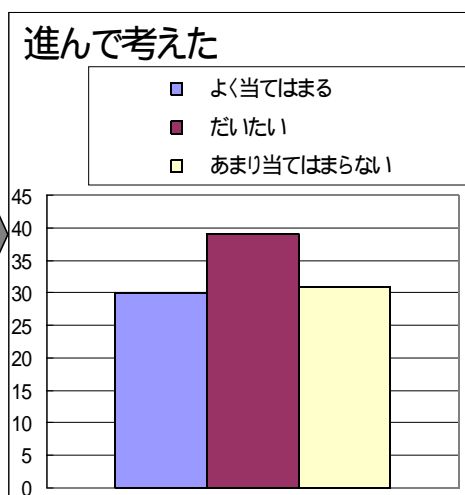


図 10月



(4年生16名 平成15年5月と10月)

ある。

### 関心・意欲・態度の改善 (15年度2回目)

平成16年1月実態調査により、1回目と比べ、関心・意欲・態度の観点では3年生から6年生まで10ポイントから15ポイント1学期より高くなっている。本校の課題であった関心・意欲・態度の観点で改善されたことが確認された。

表 平成15年度(平成16年1月実施)CRT実態調査

	関心・意欲	考え方	表現・処理	知識・理解
1年生(20人)	75.0	82.7	93.2	89.4
全国平均	84.9	81.0	89.5	87.3
2年生(14人)	81.4	66.4	87.6	79.7
全国平均	86.7	71.4	88.6	80.1
3年生(18人)	81.7	76.7	89.7	85.7
全国平均	83.9	71.2	81.2	81.6
4年生(15人)	68.3	65.3	86.3	77
全国平均	77.8	50.7	80.3	84.5
5年生(24人)	86.3	58.8	74.9	84.3
全国平均	80.6	55.5	74.0	81.9
6年生(12人)	76.8	59.3	80.0	82.5
全国平均	78.2	57.6	80.1	80.5

全国平均との差が5ポイント以上高い -
" 差が10ポイント以上高い -
" 差が5ポイント以上低い -
" 差が10ポイント以上低い -

平成15年4月実施のCRT実態調査では、**全国平均より10ポイント低かったものが4つあったが、全てなくなり改善された。**

しかし、中には、逆に下がっている観点もあり、今後の課題として取り組んでいく必要がある。

また、児童の感想を見ても当初は感想がほとんどかけなかった児童も、「今日は、丸い玉が6列、8列に並んでいるのを計算した。もっと計算しやすい方法がないかさがしてみたい。」「いつもより楽しくできてうれしかった。三角形でいろいろな四角形、平行四辺形が6個できた。」という意欲を表す言葉が見られるようになってきている。

ただ、 の「当てはまらない」の数値が依然として高いので今後の課題として取り組んでいく必要がある。

## 2. 今後の課題

学習カルテの結果を次時の指導にどのように生かすかが課題である。

- ・ 発展的・補足的な学習の教材を開発していく。
- ・ 評価を生かした授業改善について、学校独自の授業スタイルを確立していく。

・ 学力把握のための学校の取組みについて

- ・ 学力実態調査（年 2 回）
- ・ 算数科に対する意識調査（年 2 回以上）
- ・ 自己評価（算数科、毎時間実施）
- ・ 評価規準の作成（単元・単位時間、年度当初）

・ フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 教育研究会開催 日 時 平成 15 年 10 月 30 日（木）13：15～16：35  
場 所 三原市立小坂小学校  
研究主題 確かな学力を育てる授業の創造  
- 評価を生かした指導を通して -  
対 象 広島県尾三教育事務所管内
- ・ ホームページに研究成果の掲載 アドレス <http://www.mihara.ed.jp/~osaka-es/index.htm>
- ・ 大学の先生から本校のホームページを見て参考になっているというメッセージが届けられている。
- ・ 公開研究会には、県外より 8 名の参加があった。
- ・ 公開研究会での学習指導案を市のイントラネットのホームページに掲載している。

次の項目ごとに、該当する個所をチェックすること。（複数チェック可）

<b>【新規校・継続校】</b>	15 年度からの新規校	14 年度からの継続校		
<b>【学校規模】</b>	6 学級以下	7～12 学級		
	13～18 学級	19～24 学級		
	25 学級以上			
<b>【指導体制】</b>	少人数指導	T・T による指導		
	一部教科担任制	その他		
<b>【研究教科】</b>	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
<b>【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】</b>		有	無	